

子どもたちに核のゴミのない寿都を！町民の会 広報紙 No.27 2021年6月24日発行

7月4日（日）「文献調査の意味を考える」

元高知県知事の橋本大二郎さんが、7月4日（日）に寿都にいらっしゃいます。

橋本さんは、1991（平成3）年に高知県知事に当選され、連続4期を務め、2007（平成19）年12月に退任されました。2007（平成19）年には、東洋町長による文献調査の応募問題が起きました。当時の橋本さんは、知事として、反対の意思表示を行い、国やNUMOに応募を差し戻すように求めましたが、耳を貸してもらえなかったといいます。結果的には、リコール運動に追い込まれた町長が辞職し、新町長が応募を撤回し、NUMOもあきらめることになりました。

このときの経験から、寿都町の文献調査応募についても、「住民の思いをお金に換算し、自治体で合意して下さいという（国の）やり方は失礼だと思う。地方自治の歴史に禍根を残すやり方ではないか」「知事が反対すれば止まる、というのは楽観的すぎる。国が進める事業は、最初に自治体が手を挙げるという民主的な形をとってさえいれば、後はどうにでも進められる」などと警鐘を鳴らしています。

町民の会では、橋本さんに寿都に来て、お話をさせていただけないかとお願いし、快諾を得ました。高知県からはるばる寿都にまでいらしてくださいませ。ぜひ、いっしょにお話を聞きましょう。



橋本大二郎さん講演会 「文献調査の意味を考える」

日時：2021（令和3）年7月4日（日）

開場：13時00分

開演：13時30分

場所：寿都町文化センター
（ウィズコム）大ホール

入場無料

新型コロナウイルス感染防止のため、マスクの着用、アルコールによる手指消毒、ご連絡先の記入へのご協力をよろしくお願いいたします。

我が山、我が海、
我が大地を守れ

田原誠さん、寿都にUターン移住

この5月に、寿都に移住されてきた方がいます。田原誠さん。寿都高校を卒業し、54年たったのUターンです。どうして故郷に帰ってきたのか。その想いを尋ねました。

「私は、樽岸に生まれ育ちました。父親が若くして亡くなったこともあって、中学生のときに雄武町の親戚に預けられました。しかし、ホームシックにかかって、高校時代に寿都に戻りました。寿都高校を卒業して教育大学に進み、函館の会社に就職しましたが、兄貴が事業を始めていた雄武町にふたたび移って、水産加工会社の経営に参画しました。兄貴が政治の世界に飛び込んだあとは、私が社長となって20年にわたって経営を続けていましたが、最後には倒産の憂き目を見て、従業員や家族に大きな迷惑をかけてしまいました。しかし、そのつらい日々にも、寿都町の自然ゆたかな姿は忘れることはありませんでした。離れていると、なお、いっそう自然の大切さ、ありがたさがわかります。たぶん北海道一、日本一ありのままの自然の姿が唯一無二残っているのが南後志であり、寿都町です。

核のゴミの調査をすることは、先人から受け継いできた誇れる故郷を捨て去ることにつながります。寿都の先人の方々に申し訳がたちません。子どもたちには、豊かな自然を守ることを毅然として示す大人たちの姿を見せ続けたいものだと思います。

私は雄武町から十勝に移住していましたが、昨年来の故郷の危機を黙って見ていることはできず、戻ってくることにしたのです。一度は社会的に死んだ私です。これからの人生は寿都に捧げると決意しました。

この一ヶ月あまりで、町民何人とも話しました。「核のゴミ反対はもちろんだが、町民をないがしろにした傲慢な町長を許せない。俺の気持ちを聞いてくれ」と熱く語る方が多く、膝を突き合わせることの大切さを実感しています」

田原さんは、いま、町内を歩いて、町民が核のゴミについてどう思っているのか尋ねたり、自分がどうしてUターンまでしたのか話したりしているそうです。地道な活動に頭が下がります。町民の会にも加わっていただきました。田原さん、これからもよろしくお願いいたします。



山本竜也
さん新刊

『続寿都歴史写真集 昭和21年～』発売

寿都町の歴史を書いている山本竜也さん（元測候所）が『続寿都歴史写真集 昭和21年～』を出版されました。3年前に出版した『寿都歴史写真集 明治24年～昭和20年』の続編です。

漁業、町並み、寿都鉄道、鉱山、農村など、懐かしい610枚の写真が274ページにわたって収録されています。カラー写真もあります。前回の『寿都歴史写真集』は、あまりに昔すぎて、「へえ、寿都ってこんな町だったんだ」という感想を言う人が多かったのですが、今回は、多くの町民が懐かしがる写真集になっています。また、「核のゴミでかき乱される以前の寿都はこんなにいいところだったんだ」「私たちの故郷を私たちの手に取り戻さなくては」と感じる写真集でもあります。

一冊 2970円（税込み）で販売中です。一家に一冊、ぜひどうぞ。

取扱店

《寿都町》

みなとま～れ寿都
くどう書店
田中電機商会
ペンションメロー

《黒松内町》

NPO 法人ひまわり

《岩内町》

岩内町郷土館

《小樽市》

紀伊國屋書店小樽店

《札幌市》

紀伊國屋書店札幌本店・オーロラ店・厚別店
三省堂書店
丸善ジュンク堂札幌店
ほっとバス



懐かしい我が故郷①



『続寿都歴史写真集』から懐かしい一枚を紹介します。これは、1967（昭和42）年頃のひかり保育園の運動会です。現在の文化センター付近は津軽陣屋グラウンドと呼ばれ、運動会はかならずここで開かれていました。背後はムシロ小屋の観覧席。寿都名物として有名でした。建てる場所は抽選で決めようです。子どもたちがなんとも楽しそうですね。

町民の会川柳①

目を瞑り 思い浮かぶは 青い海
いつまでも 守りたいもの 笑しゃんど
お金より 大切なもの 海と山
風車が 回らない日は 不機嫌に
選挙いらん 肌感覚で 分かるなら
肌感覚 年を取って だいぶ鈍い
寿都のいくら 食べてぎよらん
愛があり 平和があるよ 寿都の海
カスベ揚げ ツブの天ぶら ブワイガニ
いつ買うの あんこうはやく 食べたいよ
わらしゃんど ズボンも靴も だろだらけ
すげーひと クジラをかったた よしのさん
やっぱり言う 寿都は良いとこ ぜひ来てね
育った町 ずっと大切に 思っほしい
六条浜 明日もこなごだ 早く寝よ

(か) (な) (の) (と) (ほ) (の) (の) (ひ) (ひ) (ま) (た) (こ) (の) (の) (の)

あなたの川柳もぜひお寄せください。
kakugomino@gmail.com

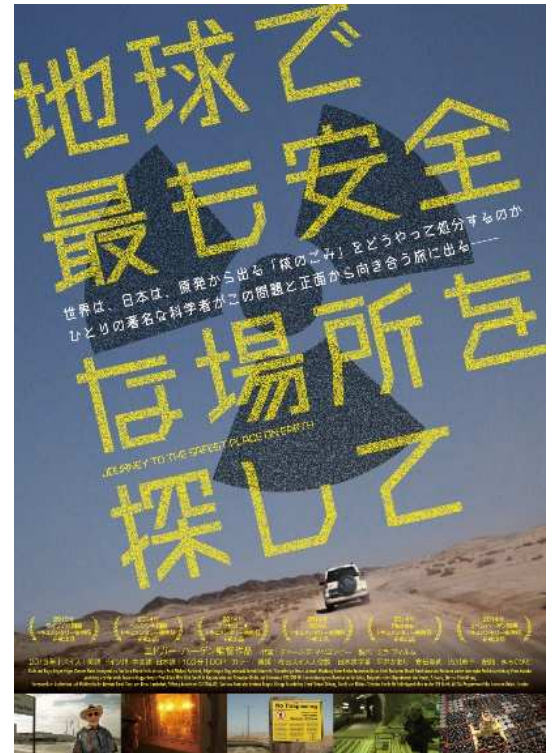
各地区で映画上映会 ぜひお越しく下さい

緊急事態宣言に伴って延期していた「地球で最も安全な場所を探して」の上映会を行います。小野有五先生のミニ講演会もあります。ぜひお越しく下さい。

★ 6月26日(土) 18時～ 湯別活性化センター

地層処分に賛成する学者が、どこなら核のゴミを埋めることができるのだろうか、と世界中を旅する映画です。寿都は登場しませんが、文献調査が進む寿都町民は必見です。4月23日にウィズコムで上映した際には、「安全性が確立されていない事業を進めるべきではないと感じた」「心に重く刺さった。どこにもうめる場所はない。地質の問題は深い。地層処分は難しい」といった感想が寄せられました。

湯別以外の各地区においても、順次、上映会を行う予定です。予定が決まり次第、お知らせしていきます。



核のゴミ問題で国会答弁

5月17日(月)の参議院決算委員会で、勝部賢志議員が高レベル放射性廃棄物最終処分場に関する質問を行いました。「反対する町長が誕生した場合にはどうなるのか?」と質問したことに対して、松山泰弘政府参考人(経済産業省電力・ガス事業部長)は「実施中の調査の中止を求められた場合には、尊重していく」とは答えましたが、「白紙撤回されるのか?」という質問に対しては、「選定のプロセスから外れる」という、これまで通りの曖昧な答えしかしませんでした。いったん食いついた自治体をかんとんに放そうとしない国の姿勢が見え隠れしています。

情報公開請求裁判、第一回終了

町議会全員協議会の議事録を町が非開示とした問題について、町民の会は公開を求めて函館地裁に訴訟を起こしました。その第一回が6月22日(火)に行われました。町は非開示に法的根拠ありとして争う姿勢を見せました。終了後、函館YWCAで開かれた記者会見には、新聞・テレビ局全10社が参加し、関心の高さがうかがえました。

今後、町側が詳しい反論書面を提出し、それを受けて町民の会側が再反論の書面を出していく、という流れになります。なお、次回からはウェブ会議で進められることになりました。

裁判の経過も今後、チラシで報告していきます。

子どもたちに核のゴミのない寿都を！町民の会

事務局 048-0401 寿都郡寿都町字新栄町 101-6
TEL/FAX : 0136-62-3630 kakugomino@gmail.com
HP : <http://kakugomi.no.coocan.jp/>
FB : <https://www.facebook.com/106569234530018/>
北海道銀行寿都支店(店番号 304)普通 0481374
ゆうちょ銀行 記号:19070 番号:44246811

